

道標ない旅

～「自立」と「共生」を目指して～

南郷中学校

令和元年11月13日(第23号)

校長 益田 孝彦 875-9494

◆◆ 駅伝県大会に応援に行きました。 ◆◆

11月9日(土)は、八景島・海の公園にて、県の駅伝大会がありました。今年度は女子チームだけの出場となりましたが、選手たちは南郷中学校の代表として、参加58校中の40位と健闘してくれました。写真は2区の方さん。区間13位で、一時順位を16位まで押し上げ、その後のランナーが力まずに走れる貢献をしていました。駅伝で頑張った女子チームの皆さん(応援に駆けつけていた男子チームの皆さんも)お疲れ様でした。



◆◆ バスケットボール部も試合が続いています。 ◆◆

残念ながら女子チームは9日の試合で三崎中に敗退してしまいましたが、男子チームは地区大会優勝の勢いそのままに、10日の試合で不入斗中を退け、勝ち残っています。23日の試合が大きな山場とのことですが、頑張ってもらいたいと思います。



◆◆ サッカー部は準優勝でした。 ◆◆

9日は駅伝に応援に行けませんでしたでしたが、サッカー部も試合があり、県に繋がる大会でしたが、三崎中に1対2で敗れたそうです。

その翌日日曜日の返葉大会では、気持ちを切り替え戦った結果、準決勝での大逆転勝利など、1年も多い中頑張って、地区準優勝を果たしました。この先も切磋琢磨して、十分な戦力をどんどん身につけて、春の大会に臨んでほしいと思います。



◆◆ 生徒会役員・委員会委員長の委嘱が行われました。 ◆◆

11月12日(火)の全校集会で、生徒会役員と、生徒会専門委員会委員長さんの委嘱式を実施しました。委嘱後、生徒会役員さん、委員長さんの挨拶がありましたので、何号かに分けて紹介します。

生徒会長 2年B組

生徒会長になりました。です。選挙時にも少しお話をさせていただきましたが、「全校でつくる南郷中」を目指して、これから1年間頑張っていきたいと思います。この南郷中は、主体として動かしているのは、先生方でもなく、私たち総務だけでもなく、ここにいる南郷中生です。私たちはこれから主体が、南郷中生全員となるような活動に、いろいろな形で取り組んでいきます。ですが、これを実行にうつすには、皆さんの力が必要です。ですので、これから始まっていく活動に協力していただくと嬉しいです。まずこの活動のはじめとして、「小学生訪問」があります。これは2年生の部長さん、委員長さんを中心として協力が不可欠です。小学生には、この南郷中の素晴らしさを知ってもらい、楽しんでもらうということを第一に、本番まで取り組んでいけたらと思っています。ご協力よろしくお願いします。そして1年間よろしくお願いします。

生徒会副会長 2年A組

今回生徒会総務副会長になりました2年A組です。私が副会長になったからには、全員が楽しいと思えるような学校にします。そして残り4ヶ月しかない3年生に特別な思い出ができたらと思います。1年間よろしくお願いします。

生徒会総務 1年A組

1年A組です。総務役員になったからこそ、この南郷中を背負うという気持ちはとても大切にしていかなければいけないと思いました。最初は皆さんにご迷惑をかけてしまうかもしれません。ですが皆さんの一票があるからこそ、今の自分があるんだということを自覚を持ち、そして僕に一票を入れた人にも「この人が総務役員でよかった」と思われるような役員になり、全校を支える力となれるようがんばります。これから1年間よろしくお願いします。

生徒会総務 1年A組

総務役員をやらせて頂くことになりました、1年A組のです。私1人の力は小さいかもしれませんが、南郷中を盛り上げていきます! また、公約で挙げたマスコットキャラクターづくりを実現するため、皆さんの協力をお願いします。1年間よろしくお願いします。

◆◆ 11月8日 南郷中学校学校評議員会兼学校関係者評価委員会が開かれました。 ◆◆

本校の学校評価は、大きく4つの柱を分析し、改善案を検討しています。今回はそのうちの二つを紹介します。

重点目標1（柱1） 「新しい時代に必要な資質・能力を育む学校」



【学校が示した中間報告改善案】

授業の項目において、全般的に向上したのは教職員の回答であったが、生徒・保護者は降下した項目が多く、両者に乖離があった。

生徒の項目を分析すると、教師や授業に対する評価の下降幅は小さく、むしろ生徒自身が自らの努力不足を認識している面が感じられる。もっとやる気を引き出す工夫が肝要に思える。

一方保護者においては、学習に関する評価が一樣に伸び悩んでいる。校内研究はいち早く新学習指導要領の導入に向けて舵を切ったが、個々の教師レベルで「主体的対話的で深い学び」の授業実践を展開し保護者の皆様から安心して受け止めて頂くには、まだ十分なものに至っていないことが分かる。今後も授業改善にしっかり努めて、時間をかけて保護者の信頼を勝ち得ていく必要がある。

【学校関係者評価（各委員の主たる発言内容）】

- ・教職員のデータが下がっているのは、一人ひとりが、「主体的対話的で深い学び」とは何何だろうと考えている証拠に見える。現実的に授業が変わってきた中で、葛藤を含めた重要な過程を踏んでいると分析できるのではないかと思う。生徒も授業スタイルが変わってきて、お互い探り合いの状態のようだがそれでいい。時間はかかるが、時間をかけた結果が良くなればいいと思う。→始まったばかりとすれば、いい方向を向いているのではないかと思う。保護者も「主体的対話的で深い学び」がどういったものかが、まだつかめないのではないかと思う。→夏休みの1年数学の宿題を見たとき、暗記ではなく、アクティブラーニングの手法の新しさを強く感じた。考える力を身につけるのが大事。教科の違いもアクティブラーニングにはあるなど感じた。→参考書を見て良い授業で、どんな参考書がいいのかも情報交換できていたのが良かった。→自由記述を見ると楽しそうにやっている声が多い印象がある。
- ・「お子さんは、家で学校のことをよくしている」という実態によってデータの変化が出てきそう。行事については話しても、日常的に話をするのだろうか。→1年3.97 2年3.52 3年4.16と学年でその実態に差がある。→南郷中は男女の仲のよい学校だと思うが、授業を参観すると分かるのだが、3年生の男女の垣根のない授業の交流は飛び抜けている。→机もついている。→嫌なムードを出さず生徒が少ないことが大きい。
- ・昔の授業は、「主体的な深い学び」を目指していたと思うが、今は「対話的」という要素が重要視されている。新しい指導要領（時代）に切り替わった重要な転換期を迎えている。

重点目標2（柱2） 「豊かな心を育み、信頼でつながった学校」

【学校が示した中間報告改善案】

教職員については、5月期の結果より取り組みが向上し始めたことはいかがえる。しかし、最低ポイント項目があるので、今後も粘り強く取り組む必要がある。周囲のサポートを感じないと、孤立感などにもつながり、「チーム南郷」を目指す上で、大きな壁となることは間違えない。

生徒においては、学校教育目標への到達度が後退しないよう、指導する教員側が、「自立」「共生」をもっと意識して、教育活動を進める必要性を感じた。

保護者の分析項目はいずれも降下している。「信頼で繋がった学校」となれるよう、信頼回復に努めていく必要がある。自由意見文等を見ても、激しい学校非難がある状況ではないが、なんとなく満足できない意識レベルにあることがうかがわれる。信頼の向上に努めていきたい。

【学校関係者評価（各委員の主たる発言内容）】

- ・小学校から中学校に切り替わることで数値が一旦下がるのは仕方ない。これが学年進行と共に上がるかに注視したい。
- ・昨年度話題に出て、ハートのポケットの方の具体的なアピールの機会があったが、今年度継続しているのかが見えてこない。→本年度もクラスに出かけて行って顔が分かるような工夫を継続しています。（校長）
- ・学校には来るがクラスには入れないケースが結構ある。→保健室やハートのポケットで過ごしてもらい機会が今年度は多い。（校長）→学校になじめないで「やしの実教室」に活路を見いだす生徒も結構います。昔は根性で乗り越えろなんていっていましたが…（教頭）→根性で乗り越える時代ではない。頑張れというのも難しい。→集団で学ぶメリットは大きいけれど…→他者とのコミュニケーションが苦痛の生徒もいる。今「やしの実」等に通っていれば将来は回復する率が高いと聞いている。（教頭）
- ・今中3は仲がいいが、小学生の時に個性を認め合うことを認識させて下さった先生がいて、育ったのが大きいと思う。→長柄小も男女仲がいい。支援級の子も普通級で過ごせる雰囲気がある。→授業の途中で立ってしまう生徒も認め合っている。
- ・保護者の評価（意識）が下がっているのは、小学校は距離感が近いのが、中学校ではちょっと距離をおいて離れていった結果に思える。小学校に比べて、相談しやすさに距離ができる結果の数値降下ではないか。

